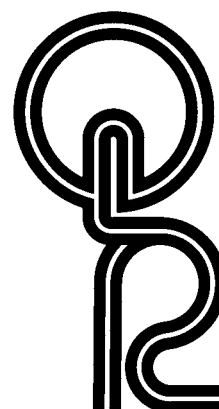
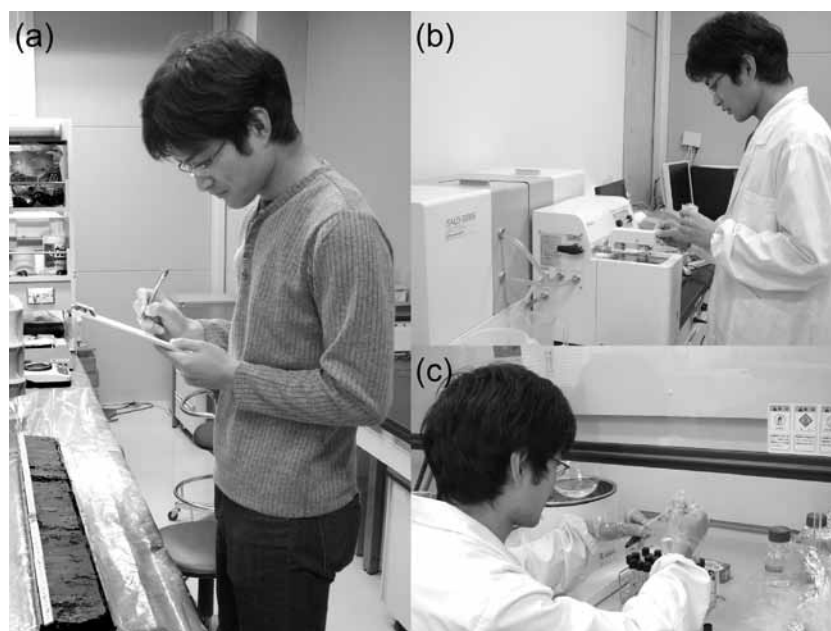


QR Newsletter



第四紀通信

Vol.17 No.6, 2010



東京大学柏キャンパスでの分析風景。(a) 堆積物コアの観察・記載。(b) レーザー回折散乱式粒度分析装置を用いた粒度分析。(c) 塩酸・水酸化ナトリウム水溶液を用いた木片の洗浄作業 (AMS-¹⁴C年代測定の前処理の一部)。このようにして得られたコア解析データと ¹⁴C年代測定値に基づいて、濃尾平野における断層活動に伴う地殻変動の証拠の検出を試みている。成果の一部は第四紀研究第48巻5号に掲載されている (丹羽ほか、2009)。

Vol. 17 No. 6

December 1, 2010

2010年度学会賞受賞者	国際シンポジウム案内	7
講演会・シンポジウム案内	講習会報告	8
学会賞・学術賞募集	JpGU2011年大会案内	9
論文賞・奨励賞募集	会員消息	10
学会賞規定	海底地すべり国際会議	10
学会賞・学術賞選考内規	データベース案内・信州大／	
論文賞・奨励賞選考内規	地理学会シンポジウム案内	11
研究集会案内	お知らせ	12

◆日本第四紀学会 2010 年度学会賞受賞者講演会（第 2 回）・シンポジウムのお知らせ

期日：2011 年 1 月 22 日（土）10:30～17:30
（参加費無料）

場所：奈良女子大学

（奈良市：近鉄奈良駅から徒歩 5 分；

<http://www.nara-wu.ac.jp/accessmap.html>）

・東京方面からは JR 京都駅乗換え、近鉄線利用が便利です。

・近鉄線京都駅⇔近鉄奈良駅
（直通特急：所要 35 分）

・同上（直通急行：所要 50 分）

【日本第四紀学会 2010 年度学会賞受賞者講演会】

10:30～12:00 文学部北棟 2 階 N202 号室

10:30～10:35 開会の辞

10:35～11:15 学会賞受賞者：吉川周作
（大阪市立大学名誉教授）

「火山灰層序および完新世環境地質に関する一連の研究」

11:20～12:00 学会賞受賞者：岡田篤正（立命館大学）

「変位地形を用いた活断層の活動史および活断層危険度評価に関する一連の研究」

【評議員会】12:10～13:10 文学部北棟 2 階 N201 号室）

【シンポジウム：近畿圏における第四紀研究の新展開に向けて—大阪層群と活断層—】

13:15～17:30 文学部北棟 2 階 N202 号室

（世話人）高田将志（奈良女子大学）・三田村宗樹（大阪市立大学大学院）・竹村恵二（京都大学大学院）

大阪層群を中心とする層序学的研究は、近畿圏をフィールドとする第四紀研究の一つの大きな柱として進展してきた。また、近畿圏における活断層・古地震研究も、第四紀研究の一翼を担う大きな柱となってきた。これらの研究を中心で支え、活躍して来られた第 1 世代の研究者の方々が、既にベテラン～シニア世代となりつつある中で、中～長期的に残された研究課題を総括すべく、本シンポジウムを企画した。近畿圏における第四紀研究となると、本来、研究テーマは多岐におよぶことになるが、今回は、日本第四紀学会 2010 年度学会賞受賞者講演会（第 2 回）のテーマとも関係の深い上記の研究分野を中心として取り上げることにした。本シンポジウムではとくに、中堅～若手の研究者、この分野の研究に興味を持つ学生、あるいは隣接分野の研究者、などの方々に向けて、これまでの研究の総括をしていただき、中～長期的な今後の研究課題について、参加者の方々にも加わっていただきながら、議論を深めていただきたいと思います。

座長：原口 強（大阪市立大学大学院）

13:20～13:55 大阪層群と第四紀—研究の現状と今後の課題：三田村宗樹（大阪市立大学大学院）

13:55～14:30 近畿圏における第四紀の植生変化と気候変化：高原 光（京都府立大学）

座長：奥村晃史（広島大学大学院）

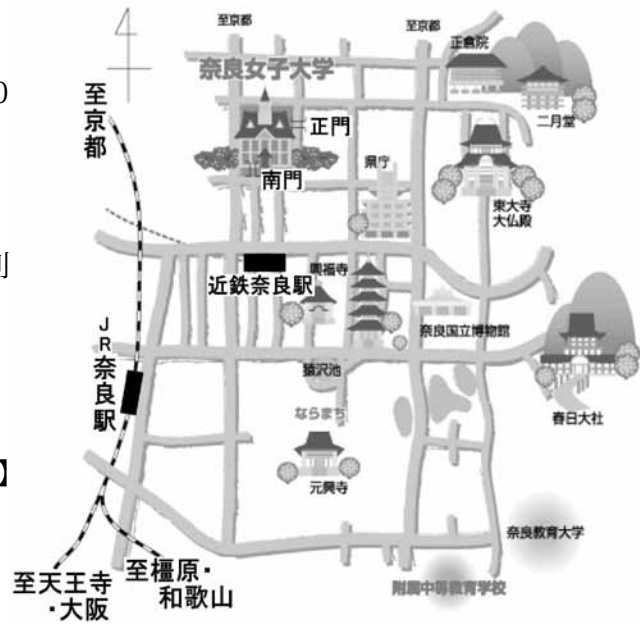
14:40～15:15 近畿三角帯の第四紀テクトニクス：石山達也（東北大学大学院）

15:15～15:50 近畿圏における先史・歴史時代の地震災害：小松原 琢（産業技術総合研究所）

座長：竹村恵二（京都大学大学院）

16:00～16:20 コメント：第四紀層序学と環境地質の課題—とくに近畿圏を中心として：北田奈緒子（地域地盤環境研究所）

16:20～16:40 コメント：これからの活断層・古地震研究に向けて：堤 浩之（京都大



学大学院)
16:40～17:25 総合討論

【シンポジウム懇親会】

17:45～19:30 奈良女子大学生協食堂 1階（懇親会費：3,500円）

- ・どなたでもご参加いただけます。
- ・参加希望の方は2011年1月12日（水）までに takada(at)cc.nara-wu.ac.jp へ御一報いただけますと助かります。
- ・近鉄奈良駅 20:00 発京都市行き特急利用で、23:15 頃東京駅着の新幹線に乗り継ぎます。

問合せ・連絡先：高田将志（奈良女子大学）

e-mail：takada(at)cc.nara-wu.ac.jp

電話：0742-20-3323

◆「日本第四紀学会賞」と「日本第四紀学会学術賞」の候補者推薦の募集について（再掲）

2011年の「日本第四紀学会賞」（以下「学会賞」）と「日本第四紀学会学術賞」（以下「学術賞」）の受賞候補者の受付を開始いたします。両賞は、学会賞受賞候補者選考委員会が、推薦された候補者の中から受賞候補者を選考し、2011年5月に開催予定の評議員会において受賞者が決定され、2011年総会で表彰される予定です。

「学会賞」：第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動及び学会活動に貢献した正会員に授与。学会における最高の賞。毎年若干名。

「学術賞」：第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象。対象成果が複数の著者（研究グループ等を含む）によりなされた場合は、筆頭著者または代表者に授与。毎年若干名。

つきましては、下記及び本号に掲載しました「日本第四紀学会学会賞規定」及び「日本第四紀学会学会賞と学術賞選考に関する内規」をご参照の上、「学会賞」及び「学術賞」の候補者をご推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。

1. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、賞の名称、「学会賞」の場合には候補者名及び具体的な業績や活動内容を示した受賞件名と推薦理由を、「学術賞」の場合には候補者名及び受賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名と推薦理由を記入する。
2. 推薦書類の提出先：
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
日本第四紀学会 学会賞受賞候補者選考委員会 宛
3. 推薦書類の受理期限 2011年1月31日（必着）

◆「日本第四紀学会論文賞」と「日本第四紀学会奨励賞」候補論文推薦の募集について

2011年の「論文賞」と「奨励賞」の推薦を下記のとおり受け付けます。これらの賞は、過去2年間（第48巻および第49巻）の「第四紀研究」に掲載された論説、短報、総説、資料、講座及び特集号の論文が対象となります。会員の皆様から自薦・他薦によって候補論文と候補者をご推薦いただき、論文賞受賞候補選考委員会において受賞候補論文・受賞候補者の選考を行います。受賞論文と受賞者は、来年5月頃に開催予定の評議員会において決定され、2011年総会で表彰される予定です。

「論文賞」：会員を含む論文著者全員に授与。毎年1-2件程度。対象は、掲載された全ての論文（短報を含む）。

「奨励賞」：会員である筆頭著者に授与。年齢は選考年の4月1日で35歳以下。毎年1-2件程度。

つきましては、下記及び本号に掲載しました「日本第四紀学会学会賞規定」及び「日本第四紀学会論文賞と奨励賞選考に関する内規」をご参照の上、「論文賞」の候補論文と「奨励賞」の候補者をご推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。

1. 選考対象:「第四紀研究」第 48 巻 (2009 年) および第 49 巻 (2010 年) に掲載された論説、短報、総説、資料、講座及び特集号の論文。「論文賞」の場合には、著者に会員が含まれることが必要。「奨励賞」の場合は、筆頭著者が会員であること。
2. 推薦書類: 推薦書類には、推薦者名 (自薦を含む)、賞の名称、「論文賞」の場合には全著者名と候補論文名 (巻号頁を明記) 及び推薦理由を、「奨励賞」の場合は候補者名と推薦論文名 (巻号頁を明記) 及び推薦理由を記入する。
3. 推薦書類の提出先:
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会 宛
4. 推薦書類の受理期限 2011 年 1 月 31 日 (必着)

◆日本第四紀学会学会賞規定

(1994 年 8 月 26 日、評議員会・8 月 27 日、総会にて決定)
(1997 年 8 月 6 日、総会にて一部改正)
(2006 年 8 月 4 日、評議員会にて一部改正)
(2007 年 2 月 3 日、評議員会にて一部改正)
(2008 年 8 月 22 日、評議員会にて一部改正)
(2010 年 8 月 20 日、評議員会にて一部改正)

[目的]

第 1 条 本規定は日本第四紀学会会則第 3 条 3 項に基づき、第四紀学の発展に貢献する優れた業績をあげた会員等の表彰に係わる事項を定める。

[章の名称]

第 2 条 本学会に、日本第四紀学会賞、日本第四紀学会学術賞、日本第四紀学会功労賞、日本第四紀学会論文賞及び日本第四紀学会奨励賞 (以下「学会賞」、「学術賞」、「功労賞」、「論文賞」及び「奨励賞」と略称する) を設ける。

[受賞の対象]

第 3 条 学会賞は、第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動、及び学会活動に貢献した正会員に授与し、学会における最高の賞とする。学術賞は、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与する。功労賞は、第四紀学の発展や学会活動に貢献した個人や団体、組織に授与する。論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載された第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を発表した会員である著者に授与する。奨励賞は若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的とする。

[受賞者の選考]

(学会賞と学術賞)

第 4 条 学会賞及び学術賞候補者を選考するため、学会賞受賞者選考委員会 (以下「学会賞選考委員会」と略称する) をおく。

第 5 条 学会賞選考委員会は、評議員の投票により選出された評議員経験が 2 期以上の 5 名の会員からなる学会賞選考委員で構成し、学会賞選考委員の互選により学会賞選考委員長をおく。学会賞選考委員の任期は 1 年とし、3 期以上連続して就任できない。

第 6 条 本学会会員は、学会賞選考委員会に対して学会賞及び学術賞受賞候補者を推薦することができる。

第 7 条 学会賞選考委員会は毎年 6 月 30 日までに選考を終了し、受賞候補者を会長に答申する。学会賞選考委員会は必要に応じて参考人から意見を聴取することができる。

(功労賞)

第 8 条 功労賞の選考は、幹事会にて行い、評議員会に候補者を推薦する。

(論文賞と奨励賞)

第 9 条 論文賞及び奨励賞受賞候補者を選考するため、論文賞受賞者選考委員会 (以下「論文賞選考委員会」と略称する) をおく。

第 10 条 論文賞選考委員会は、評議員の投票により選出された 5 名の論文賞選考委員で構成し、論文賞選考委員の互選により論文賞選考委員長をおく。論文賞選考委員の任期は 1 年とし、連続して論文賞選考委員に就任することはできない。

第 11 条 本学会会員は、論文賞選考委員会に対して論文賞及び奨励賞受賞候補者を推薦するこ

とができる。

第 12 条 論文賞選考委員会は毎年 6 月 30 日までに選考を終了し、受賞候補者を会長に答申する。論文賞選考委員会は必要に応じて参考人から意見を聴取することができる。

[受賞者の決定]

第 13 条 評議員会は、学会賞選考委員会、幹事会及び論文賞選考委員会から推薦された受賞候補者をもとに、受賞者を決定する。

[選考結果の報告]

第 14 条 学会賞選考委員長、幹事長及び論文賞選考委員長は、評議員会の結果を踏まえて受賞者の選考経過と結果を総会に報告する。

[授賞式]

第 15 条 授賞式は総会にあわせて行い、学会賞、学術賞、功労賞及び論文賞受賞者へは賞状を、奨励賞受賞者へは賞状及び副賞〈賞金〉を授与する。

[その他]

第 16 条 本規定に定めるもののほか、学会賞に係わる必要事項は内規として評議員会が別に定める。

[規定の変更]

第 17 条 本規定の変更には評議員会の承認を必要とする。

[規定の施行]

第 18 条 本規定は 2010 年 9 月 20 日から施行する。

◆日本第四紀学会学会賞と学術賞選考に関する内規

(2007 年 2 月 3 日、評議員会にて決定)

(2008 年 8 月 22 日、評議員会にて一部改正)

(2010 年 8 月 20 日、評議員会にて一部改正)

1. 学会賞は、第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動及び学会活動に貢献した正会員に授与する。
2. 学術賞は、第四紀学の発展に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与する。優れた編書・著書・論文などの一連の業績を対象とする。
3. 学会賞と学術賞の授与は、原則として毎年とし、それぞれ若干名とする。
4. 学術賞の対象成果が、複数の著者〈研究グループ等を含む〉によりなされたものである場合には、筆頭著者または代表者に学術賞を授与する。
5. 学会賞選考委員は、会長が専門分野を付記して推薦した 10 名以上の正会員のなかから、評議員の投票により選出される。得票数が同数のときは、専門分野の委員数が少ない者を委員とする。専門分野の委員数も同数の場合は、年長順とする。選挙の際には、分野を考慮した選挙を行うため、各分野からの候補者、過去 3 年間の学会賞選考委員会の名簿を明示する。なお、学会賞選考委員の任期は 1 年とし、3 期以上連続して就任できない。
6. 学会賞選考委員が受賞候補者となった場合には、賞の選考に関与しないこととする。
7. 学会賞選考委員に欠員が生じた場合は、次点者を補充する。
8. 受賞候補者の推薦書類は、授与年の 3 月末日までに日本第四紀学会学会賞選考委員会宛てに提出する。
9. 受賞候補者の推薦書類には次の事項を記入する。賞の名称、推薦者名（自薦を含む）、受賞候補者名、受賞件名及び推薦理由。
10. 会長は第四紀通信に学会賞と学術賞の受賞候補者の推薦募集に関する記事を掲載する。
11. 学会賞選考委員会は、幹事会が定める期日までに届いた自薦と他薦及び評議員から推薦された候補者の中から受賞候補者を選考し、会長に答申する。また、学会賞選考委員長は、評議員会と総会において、選考経過と結果を報告する。
12. 学会賞選考委員長は第四紀通信に評議員会で決定した受賞者と受賞理由を報告する。
13. 学会賞と学術賞の選考において、受賞候補者が、当該年の論文賞の受賞候補者となっても、双方の賞の妨げとしない。
14. 本内規の変更には評議員会の承認を必要とする。
15. 本内規は、2010 年 8 月 20 日から施行する。

◆日本第四紀学会論文賞と奨励賞選考に関する内規

(1994年8月26日、評議員会・8月27日、総会にて決定)
(1995年1月28日、評議員会にて一部改正)
(1997年8月6日、総会にて一部改正)
(1999年1月30日、評議員会にて一部改正)
(2006年8月4日、評議員会にて一部改正)
(2007年2月3日、評議員会にて一部改正)
(2010年8月20日、評議員会にて一部改正)

1. 選考の対象は、授与年の前々年及び前年の2年間(2巻分)の第四紀研究に発表された論説、短報、総説、資料、講座及び特集号の論文とする。奨励賞については、選考が行われる当該年の4月1日現在で、会員である35歳以下の筆頭著者の論文を対象とする。すでに奨励賞を受賞したことのある筆頭著者の論文は、奨励賞の対象とならない。
2. 論文賞と奨励賞の授与は原則として毎年とし、受賞論文数は論文賞が1-2編程度、奨励賞が2編程度とする。
3. 論文賞受賞論文が複数の著者(研究グループ等を含む)により執筆されたものである場合には、執筆者一同に論文賞を授与する。奨励賞については会員である筆頭著者に授与する。同一論文が、論文賞と奨励賞の候補となった場合には、論文賞を優先する。ただし、奨励賞受賞候補者であることを選考結果報告に記載し、評議員会で論文賞が授与された際は、奨励賞の副賞も授与する。また評議員会で論文賞が授与されなかった場合は、奨励賞候補者として評議員会で審議する。
4. 論文賞選考委員は、会長が専門分野を付記して推薦した10名以上の正会員の中から、評議員の投票により選出される。得票数が同数のときは、専門分野の委員数が少ない者を委員とする。専門分野の委員数も同数の場合は、年長順とする。
5. 論文賞選考委員が受賞候補者となった場合には、賞の選考に関与しないこととする。
6. 論文賞選考委員に欠員が生じた場合は、次点者を補充する。
7. 論文賞と奨励賞の選考に当たっては、論文の独創性、将来の発展性、総合性や重要な発見などを選考の基準とする。
8. 受賞候補者の推薦書類は、幹事会が定める期日までに日本第四紀学会論文賞選考委員会宛てに提出する。
9. 受賞候補者の推薦書類には次の事項を記入する。賞の名称、推薦者名(自薦を含む)、受賞候補者名、受賞候補論文名(巻号頁を含む)及び推薦理由。
10. 会長は第四紀通信に論文賞と奨励賞の受賞候補者の推薦募集に関する記事を掲載する。
11. 論文賞選考委員長は第四紀通信に評議員会で決定した受賞者と受賞理由を発表する。
12. 本内規の変更には評議員会の承認を必要とする。
13. 本内規は、2010年8月20日から施行する。

◆東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会のお知らせ

日本第四紀学会テフラ・火山研究委員会は、以下の日程で東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会「日本列島周辺域に分布するテフラのデータベース整備にむけて」を開催することにいたしました。研究集会プログラム等の詳細は、学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/qr/>)にてお知らせする予定です。ふるってご参加下さい。

1. 場所：東京大学大気海洋研究所 講堂(柏キャンパス)
2. 日程と主なテーマ
2011年1月11日(火)：テフラ研究の最前線とデータベース
2011年1月12日(水)：テフラデータベース構築に向けて：隣接分野とテフラへの適用
3. 参加費無料、事前登録は必要ありません。直接会場において下さい。
4. 問い合わせ先
世話人：長岡信治・鈴木毅彦・青木かおり
問い合わせ先：鈴木毅彦 首都大学東京 都市環境学部地理学教室
TEL：042-677-2590 FAX：042-677-2589 e-mail：suzukit(at)tmu.ac.jp

◆中・下部更新統境界国際模式地に関する国際シンポジウム（千葉）

ベルリンにおける INQUA 以降提案している国際境界模式候補地千葉の Lower Middle Pleistocene Boundary に関する最終的決定が近づいています。来年スイスでの INQUA 大会で国際模式候補地が INQUA として決まる予定になりました。決まった候補地は翌年の IGC で決定される運びです。それに対して、千葉セクッションを関係者に知ってもらおうと下記のようなシンポジウムを計画しました。第四紀の細分に関するワーキンググループの委員長 Pillans 教授も来日されます。（熊井久雄）

- ・日時：2011年1月15日（土）・16日（日）
- ・場所：市原市 サンプラザ市原 2F
- ・参加費：一般 2,000 円（資料代込み）、学生 1,000 円（資料代込み）
- ・主催：アジア太平洋第四紀層序委員会、古関東深海盆ジオパーク認証推進協議会
- ・後援：Japan Branch IUGS-GEM、The Japan Chapter on Medical Geology IMGA、日本第四紀学会（交渉中）、地質汚染—医療地質—社会地質学会、日本地質学会環境地質部会（交渉中）、市原市（交渉予定）、京葉天然ガス協議会（交渉予定）、千葉県地質業協会（交渉予定）、NPO 日本地質汚染審査機構、地球汚染—医療地質研究センター

<プログラム>

1月15日

10:00 挨拶

10:20 熊井久雄（Member of Commission on Stratigraphy and Chronology, INQUA）シンポジウムの意義と国際模式地選定経過

10:30 Prof. Brad Pillans (President of Stratigraphy and Chronology, INQUA, Australian National Univ.) Progress on the working group on the Lower Middle Pleistocene Boundary. (Tentative topic)

11:00 Prof. Martin J. Head (Member of Commission on the Stratigraph of IUGS, Brock Univ., Canada) The Quaternary and its subdivision, with special focus on the Early-Middle Pleistocene boundary.

11:30 風岡 修（千葉県地質環境研究室）上総層群の層序と国本層中の中・下部更新統境界模式候補地

12:00～13:00 昼食

13:00 会田信行（千葉県立小見川高校）国本層中の中・下部更新統境界の古地磁気層序

13:30 五十嵐厚夫（復建調査設計株式会社）・亀丸文秀（横浜市青葉区）房総半島における中・下部更新統境界付近の浮遊性および底生有孔虫の生層序

14:00 青木かおり（立正大学）日本周辺海域の海底堆積物とテフラ層序

14:30 里口保文（琵琶湖博物館）房総半島に分布する広域テフラとその年代

15:00 高山俊昭（交渉中）日本の第四紀石灰質ナンノ化石層序（仮題）

15:30 竹下欣宏（信州大学）白尾タフの給源火山とその年代

16:00 休憩

紙上発表：楡井 久（Officer, IUGS-GEM）・・・人工地層層序学からみた自然地質境界問題—古地磁気層序確立に不可欠な火山灰層（客観的な時間的同一地層単元）—

16:15 総合討論

19:00 Welcome Party（懇親会）サンプラザ市原 12F
参加費 予価 5,000 円（参加人数による）

- ・宿舎 五井グランドホテルなど（各人で予約願います）
- ・1月16日午前、市原市田淵の中・下部更新統境界模式地候補地点の見学会を計画しています。

使用言語 英語・日本語

◆日本第四紀学会「沖積層：その堆積物・堆積システム・堆積シーケンスの解析法の基礎」講習会参加報告

谷川晃一郎（神戸大学大学院地球惑星科学専攻）

2010年9月9～11日に、同志社大学京田辺キャンパスにおいて、日本第四紀学会講習会「沖積層：その堆積物・堆積システム・堆積シーケンスの解析法の基礎」が開催された。参加者は18名で、沖積層に限らずさまざまな研究分野の方々が参加されていた。講習会はシーケンス層序学の概要やこれからの沖積層研究についての講義、柱状図やパソコンを用いた実習、水路実験の見学など盛りだくさんで、非常に充実した3日間となった。

1日目は、増田富士雄先生（同志社大学）の簡単なオリエンテーションの後、谷口圭輔先生（同志社大学）の解説でラボでの実験の見学から始まった。まず、沈降天秤粒度分析装置を用いた粒度分析、次に造波水槽での水路実験を見学した。人工的に作った海岸（海浜～陸棚）に波を起こし、海岸で侵食された堆積物がどのように運搬され、どこに堆積するのかを再現したもので、波の波長の違いや堆積物の粒度などを反映して、後浜～前浜の地形がどのように形成されるのかがとてもよくわかった。参加者はカメラやビデオを手に熱心に見入っていた。続いて、円形の造波水槽でも同様に波によって地形ができる過程を見学し、その後は増田先生の講義となった。初日の講義は、柱状図の記載と柱状図を用いた地質断面図の作成に関する内容が中心であった。柱状図の記載の上でのさまざまな注意点が解説され、私自身、身につまされることが多く、今後はもっと正確で詳細な記載を心がけなければと感じた。また、よい柱状図からは、それらを並べて地質柱状断面図を作るだけでも堆積環境などの情報を読み取ることができることを学んだ。豊岡盆地の地質柱状断面図に岩相境界を引いてくる宿題もでたが、実際にやってみると断面図に岩相境界を引くだけでも迷ってしまうところも多く難しかった。



地質柱状図と岩相境界について講義を行う増田富士雄会員

2日目も、引き続き講義が行われた。シーケンス層序学の歴史から、シーケンス境界の認定、海水準変動に対応し形成された各堆積体など、シーケンス層序学をさまざまな研究事例を上げて増田先生が紹介された。講義の途中には琵琶湖で掘削されたコアの観察も行った。表面を刷毛などできれいにしながら堆積構造や級化構造などを読み取り、堆積環境を推測する、これぞ堆積学といった内容であった。また、地質柱状断面図に岩相境界を引く作業を、大阪平野や仙台平野などの断面図でも行った。1日目に出された宿題の解釈の例（増田先生いわく「正解はない」らしい）も示された。岩相境界を引く際は、岩相から堆積の流れを考えながら、現地形も参考にして引く必要があることを改めて強調されていた。2日目は座学中心であったが、冗談を交えながらの増田先生のお話はとても面白く時間はすぐに過ぎていった。講義終了後は懇親会も行われた。

最終日は、佐藤智之先生（産総研）と石原与四郎先生（福岡大学）の講義が行われた。佐藤先生はご自身が学生の時に研究されていた矢作川の沖積層を例に、デルタのお話をされた。実習では、 ^{14}C 年代が多く測定された柱状図を並べて1000年ごとの等時間線を引き、さらに堆積速度と堆積相の対応から地層の累重関係を考慮して予想される等時間線（古地形面）を引き直し、等時間線の示す古標高から古地理を復元する作業を行った。このような手法を用いた古地理復元は初めてで、非常に興味深かった。講習会の最後は、将来の沖積層研究の事例の一つとして、石原先生がボーリングデータベースを用いた3次元地質モデルを紹介され、産総研で最近公開されたボーリング柱状図解析システムとエクセルを用いて、参加者も関東平野のデータから3次元モデルを作成する実習を行った。任意の境界（例えば岩相や堆積相）で3次元の地形面を作成することができ、古地形を推定する上でとても有用だと感じた。今後、より多くの地域でこれらのデータベースが整備・公開され、研究に利用できるようになることが望まれる。

最後になりましたが、非常に興味深い講義や実習をして下さった講師の先生方と、この講習会を企画して下さった高田将志先生（奈良女子大学）に厚く御礼申し上げます。

◆日本地球惑星科学連合 2011 年大会発表申し込み日程のお知らせ（予報）

日本地球惑星科学連合 2011 年大会が下記の日程で開催されます。第四紀学に関連するセッションが多数開催される見込みです。会員多数の参加と発表を期待します。以下は、日本地球惑星科学連合の大会ホームページ (<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>) より編集したものです。今後、セッションの詳細情報等が掲載される予定です。

2011 年大会の予定概要

- 会期：2011 年 5 月 22 日（日）～ 27 日（金）6 日間
- 会場：幕張メッセ国際会議場（〒 261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1）
- 各種受付開始日・締切日
 - 予稿原稿投稿：2011 年 1 月 11 日（月）より受付開始
早期締切～1 月 31 日（月）、最終締切～2 月 4 日（金）
 - 事前参加登録：2011 年 1 月 11 日（月）～4 月 8 日（金）

●各種料金（各種料金は 11 月 8 日現在未定です。ここに示す料金は昨年度のものでご注意ください）

- 予稿集原稿投稿：早期投稿：1,500 円 / 1 件、最終投稿：3,000 円 / 1 件
図掲載（Web アップロード）：500 円 / 1 件（最大 150kB）
 - 参加登録（全日程料金 / 24 時間料金）
 - ・事前登録：＜一般 会員 11,000 円 / 5,000 円 同大会会員 18,000 円 / 12,000 円＞
＜小中高教員 会員 4,500 円 / 1,000 円 同大会会員 11,500 円 / 8,000 円＞
＜大学院生・研究生 会員 5,500 円 / 2,000 円 同大会会員 11,500 円 / 8,000 円＞
 - ・当日参加登録：＜一般 会員 13,000 円 / 6,000 円 同大会会員・非会員 20,000 円 / 13,000 円＞
＜小中高教員 会員 6,000 円 / 3,000 円 同大会会員・非会員 13,000 円 / 10,000 円＞
＜大学院生・研究生 会員 7,000 円 / 4,000 円 同大会会員・非会員 13,000 円 / 10,000 円＞
- 連合個人会員でなくても大会に参加できますが、会員と大会会員・非会員とでは、参加登録料が異なります。

◆ 2011 年日本地球惑星科学連合大会セッション提案について（速報）

日本第四紀学会では、2010 年に引き続き『ヒト—環境系の時系列ダイナミクス』（従来の『第四紀』に代わるセッション）を単独開催し、『活断層と古地震』を主催提案します。また、『ジオパーク』『人間環境と災害リスク』を共催しますほか、『平野地質—第四紀層序と地質構造—』『活断層と地震災害軽』など第四紀学関連セッションが多数提案されています。ふるってご参加ください。詳細は、第四紀通信次号でお知らせします。提案セッション一覧が以下の連合ホームページに掲載されています。

<https://secure.jtbcom.co.jp/jpgu/session/DisplaySessionProposalStat.asp>

◆第5回海底地すべり国際会議

2011年10月24～26日に京都で第5回海底地すべり国際会議（Fifth International Symposium on Submarine Mass Movements and Their Consequences）が開催されます。この会議はIGCP-585に関連した会議で、5回目にして初めて欧米を離れ、日本での開催となりました。日本第四紀学会はこの会議を後援しています。会議開催前日（10月23日）と会議後（10月27～28日）にはそれぞれ和泉山地の陸上の地すべりと房総の地層にみられる海底地すべりの巡検が予定されています。この会議のプロシーディングスはこれまでのこの会議と同様にSpringerから査読付単行本として会議より前に刊行され、参加者にはこの本が配布されます。このプロシーディングスへの投稿はすでに締め切られましたが、会議では口頭発表のほかにポスター発表もあり、これへのアブストラクト投稿の締め切りは2011年9月1日になります。まだ、会議での発表のチャンスはあります。現世だけでなく、地層の海底地すべりやそのメカニズム、それに関連した堆積物の発表も予定されていますので、日本第四紀学会会員の皆さまの積極的な参加をお願いいたします。

- ・日時：2011年10月24日（月）～26日（水）
 - ・場所：京都大学芝蘭会館
 - ・主なテーマ：1) 活動的／非活動的縁辺域における海底地すべり、2) 海底地すべりの地質学・テクトニクス規制、3) 地震活動や津波と海底地すべり、4) 海底斜面崩壊とガスハイドレート、5) 海底斜面の地盤工学的特性、6) 海底斜面崩壊と気候変動との関係、7) 海底斜面崩壊のモデリング
 - ・キーノートスピーカー：佐々恭二（国際地すべりコンソーシアム）、Dugan, B. (Rice Univ., USA)、Lin, A. T.-S. (National Central Univ., Taiwan)、Nadim, F. (NGI, Norway)、Pini, G.A. (Univ. Bologna, Italy)、佐竹健治（東大地震研）
 - ・ポスター発表のアブストラクト締め切り：2011年9月1日
 - ・登録料（プロシーディングス、アブストラクト集合む）：事前（4/1まで）一般55,000円、学生25,000円、通常一般65,000円、学生30,000円
- 詳細は、会議 web ページ <http://landslide.jp>

◆統合化地下構造データベースの構築について

独立行政法人防災科学技術研究所（研究代表機関、理事長：岡田義光）と独立行政法人産業技術総合研究所（理事長：野間口 有）は、科学技術振興調整費重要課題解決型研究「統合化地下構造データベースの構築」の一環として、ボーリングデータの電子化促進を目指した6つのソフトウェアからなるボーリングデータ処理システム（Windows 対応）を公開しました。

下記のサイトから6つのソフトウェアをダウンロードすることができます。

- ・独立行政法人防災科学技術研究所
(URL : <http://www.geo-stn.bosai.go.jp/software/boring/index.html>)
 - (1) ボーリング柱状図表示システム
 - (2) ボーリングデータ品質確認システム
- ・独立行政法人産業技術総合研究所
(URL : <http://gsj3dm.muse.aist.go.jp/software/boring/index.html>)
 - (3) ボーリング柱状図入力システム
 - (4) ボーリング柱状図土質名変換システム
 - (5) ボーリングデータバージョン変換システム
 - (6) ボーリング柱状図解析システム

◆信州大学山岳科学総合研究所・日本地理学会研究グループシンポジウム 「日本における亜高山・高山域の植生・環境変遷史」

- ・2010年12月11日（土）信州大学理学部C棟大会議室（松本市旭3-1-1）
入場無料・申込不要。学内には駐車場なし。
- ・所長挨拶・趣旨説明（10:00～10:10）
- ＜基調講演（10:00～10:50）＞
 - 「北アルプスとその周辺の地史及びそれらの第四紀学的意味」町田 洋（東京都立大学名誉教授・日本第四紀学会前会長）
- ＜堆積物の層序や年代（10:50～12:05）＞
 - 「北アルプス周辺の地層の年代観や編年手法」植木岳雪
 - 「北アルプス周辺の大規模地すべりと古環境研究」荻谷愛彦
 - 「北アルプス周辺の第四紀テフラ」竹下欣宏
- ＜古植生（13:00～14:40）＞
 - 「北東アジア沿岸、海洋域の植生から見た日本の高山・亜高山帯の植生地理」沖津 進
 - 「大型植物化石分析による最終氷期以降の植物群の変遷」百原 新
 - 「日本における亜高山・高山域の植生変遷史」守田益宗
 - 「白馬村や魚沼丘陵における花粉分析からみた植生変遷」三宅 尚
- ＜亜高山・高山域の植生および環境の変遷史一事例研究（14:50～16:05）＞
 - 「信州の湖沼堆積物からさぐる氷期の古環境」公文富士夫・河合小百合
 - 「上高地学術ボーリングから判明した地形発達史と山岳の環境変遷」原山 智・河合小百合
 - 「信州の湖沼・湿原堆積物と過去数万年の植生変遷」富樫 均
- ・総合討論（16:10～17:00）

主催：信州大学山岳科学総合研究所 日本地理学会「日本における亜高山・高山域の植生・環境変遷史」研究グループ
（問合わせ：信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム [suims\(at\)shinshu-u.ac.jp](mailto:suims(at)shinshu-u.ac.jp)）

◆「デジタルブック 最新第四紀学」の販売中断について

「デジタルブック 最新第四紀学」を会員特価にて頒布中でしたが、このたび在庫がなくなりました。今後は一般販売に向けて増刷する準備を進めていますが、なおしばらく時間がかかる見込みです。準備できしだい、学会ホームページ、会員メーリングリストおよび第四紀通信等でお知らせいたしますので、しばらくお待ちください。

なお、それまでは学会事務局に送金されないよう、お願いいたします。(幹事会)

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：荻谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦
〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 電話：044-911-1014 FAX：044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
株式会社春恒社 学会事業部内
E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176